若年性関節リウマチの全国実態調査（第３報）
――二次調査について（その２）――

鹿児島大学小児科　寺　脇　　保
鉾之原　　昌

昨年度調査した結果の続きを報告する。

次に検査所見の結果をのべる。表14の如く，血色素

表14

<血色素>

時	初診時 例数	初診時 %（234例中）	診断確定時 例数	診断確定時 %（153例中）	現在または最終診察時 例数	現在または最終診察時 %（232例中）
14.0～	13	5.5	7	4.6	24	10.3
12.0～14.0	58	24.8	31	20.3	77	33.2
11.0～12.0	67	28.6	41	26.8	63	27.2
10.0～11.0	40	17.1	33	21.6	30	12.9
9.0～10.0	35	15.0	21	13.7	23	9.9
8.0～ 9.0	13	5.5	12	7.8	9	3.9
0～ 8.0	8	3.4	8	5.2	6	2.6
計	234例	(100%)	153例	(100%)	232例	(100%)

<赤血球数>

450万	71	30.2	42	27.8	137	58.3
350万～450万	147	62.6	97	64.2	92	39.1
250万～350万	17	7.2	11	7.3	6	2.6
0　～250万	0	0	1	0.7	0	0
計	235例		151例		235例	

<血小板数>

60万～	10	6.1	10	8.6	11	6.3
50万～60万	12	7.3	8	6.9	9	5.1
40万～50万	19	11.6	23	19.8	18	10.3
30万～40万	40	24.4	28	24.1	41	23.4
20万～30万	47	28.7	31	26.7	68	38.9
10万～20万	32	19.5	15	12.9	26	14.8
0　～10万	4	2.4	1	0.8	2	1.1
計	164例		116例		175例	

表15

<白血球数>

時 (×10⁴)	初診時 例数	初診時 %	診断確定時 例数	診断確定時 %	現在または最終診察時 例数	現在または最終診察時 %
3～	4	1.7	4	2.6	2	0.9
2～3	22	9.2	13	8.4	8	3.4
1.5～2	34	14.1	21	13.5	8	3.4
1～1.5	74	30.7	43	27.7	39	16.7
0.9～1	17	7.1	8	5.2	26	11.1
0.8～0.9	23	9.5	14	9.0	30	12.8
0.7～0.8	18	7.5	22	14.2	30	12.8
0.6～0.7	18	7.5	13	8.4	39	16.7
0～0.6	31	12.9	17	11.0	52	22.2
計	241例		155例		234例	

<好酸球>

6%以上	12	5.4	8	5.8	12	5.5
6%未満	209	94.6	130	94.2	206	94.5
計	221例		138例		218例	

<桿状核>

10%以上	139	59.1	90	61.2	92	40.4
10%未満	96	40.9	57	38.8	136	59.6
計	235例		147例		228例	

<尿蛋白>

＋	26	11.8	6	4.6	9	5.0
±	42	19.0	20	15.4	18	10.1
－	153	69.2	104	80.0	152	84.9
計	221例		130例		179例	

<尿糖>

＋	3	1.4	1	0.8	1	0.6
±	4	1.8	0	0	0	0
－	211	96.8	123	99.2	177	99.4
計	218例		124例		178例	

表16

<血沈>

時 (mm)	初診時		診断確定時		現在または最終診察時	
	例数	%	例数	%	例数	%
100～	40	16.7	20	14.2	2	0.9
80～100	36	15.1	27	19.2	9	3.9
60～ 80	49	20.5	30	21.2	18	7.7
40～ 60	40	16.7	24	17.0	19	8.1
20～ 40	43	18.0	27	19.2	51	21.8
0～ 20	31	13.0	13	9.2	135	57.7
計	239例		141例		234例	

<CRP>

＋10以上	2	0.8	2	1.3	0	0
＋8～＋9	7	2.8	3	2.0	1	0.4
＋6～＋7	45	18.3	19	12.5	15	6.2
＋4～＋5	59	24.0	47	30.9	22	9.1
＋2～＋3	74	30.1	38	25.0	41	16.9
±1～＋1	34	13.8	21	13.8	43	17.7
－	25	10.2	22	14.5	121	49.8
計	246例		152例		243例	

表17

<ASO>

時	初診時		診断確定時		現在または最終診察時	
	例数	%	例数	%	例数	%
1125以上	7	3.1	4	3.0	1	0.7
833	4	1.8	2	1.5	0	0
500	9	4.0	2	1.5	7	4.7
320，333	11	4.8	6	4.4	8	5.4
200～250	15	6.6	10	7.4	6	4.1
50～200	66	29.1	42	31.1	42	28.4
50以下	97	42.7	58	43.0	65	43.9
－	18	7.9	11	8.1	19	12.8
計	227例		135例		148例	

<RAtest>

＋3	2	0.9	4	2.9	8	3.7
＋2	14	6.1	11	7.8	9	4.2
＋1	25	11.0	13	9.3	20	9.2
±	3	1.3	6	4.3	4	1.8
－	184	80.7	106	75.7	175	81.0
計	228例		140例		216例	

<Waaler Rose>

＋	3	7.0	0	0	2	5.0
±(×8)	4	9.3	1	5.5	2	5.0
－(×4以下)	36	83.7	17	94.5	36	90.0
計	43例		18例		40例	

<RAHA>

＋(×160以上)	4	40.0	1	50.0	6	46.2
±(×40×80)	3	30.0	0	0	2	15.4
－(40未満)	3	30.0	1	50.0	5	38.5
計	10例		2例		13例	

では，診断確定時10 g/dl 未満は，26.7%，赤血球数では，350万未満は8%であり，貧血は低色素性のものが多い。血小板数は，初診時10万未満2.4%，50万以上が，13.4%であった。

表15は，白血球及び尿所見であるが，2万以上の白血球増多は，診断確定時13.0%であり，6%以上の好

表18

<IgG>

時	初診時		診断確定時		現在または最終診察時	
	例数	%	例数	%	例数	%
2000以上	17	16.0	9	18.0	18	18.4
1800～2000	8	7.5	7	14.0	9	9.2
1600～1800	11	10.4	7	14.0	10	10.2
1400～1600	22	20.8	6	12.0	10	10.2
1200～1400	10	9.4	6	12.0	10	10.2
1000～1200	18	17.0	5	10.0	15	15.3
800～1000	10	9.4	6	12.0	20	20.4
600～ 800	7	6.6	3	6.0	3	3.1
400～ 600	1	0.9	1	2.0	2	2.0
400未満	1	0.9	0	0	1	1.0
計	106例		50例		98例	

<IgA>

500以上	8	8.0	4	8.0	9	9.4
400～500	1	1.0	0	0	5	5.2
300～400	9	9.0	4	8.0	8	8.3
200～300	27	27.0	13	26.0	22	22.9
100～200	39	39.0	22	44.0	34	35.4
100未満	16	16.0	7	14.0	18	18.8
計	100例		50例		96例	

<IgM>

500以上	2	1.9	0	0	4	4.1
400～500	2	1.9	3	5.8	0	0
300～400	8	7.6	4	7.7	8	8.2
200～300	29	27.6	17	32.7	20	20.6
100～200	55	52.4	25	48.1	55	56.7
100未満	9	8.6	3	5.8	10	10.3
計	105例		52例		97例	

酸球増多は，5.8％にみられている。

尿蛋白は，初診時11.8％に出現している。

表16は，活動性をみる赤沈とCRPであるが，初診時，20 mm/h 以上の赤沈亢進は，87％，CRP陽性は，

表19

<補体 C_3>

時	初診時		診断確定時		現在または最終診察時	
	例数	%	例数	%	例数	%
100以上	25	51.0	18	56.2	21	44.7
80～100	5	10.2	3	9.4	11	23.4
60～ 80	7	14.3	6	18.8	5	10.6
40～ 60	8	16.3	2	6.2	8	17.0
20～ 40	4	8.2	2	6.2	2	4.2
20未満	0	0	1	3.1	0	0
計	49例		32例		47例	

<補体 C_4>

100以上	1	7.7	1	8.3	0	0
80～100	4	30.8	2	16.6	1	2.7
60～ 80	1	7.7	1	8.3	4	11.1
40～ 60	4	30.8	6	50.0	12	33.3
20～ 40	3	23.0	2	16.6	13	36.1
20未満	0	0	0	0	6	16.6
計	13例		12例		36例	

<抗核抗体>

+(×80)	4	4.5	4	7.8	2	2.4
±(×10～×40)	5	5.7	2	3.9	4	4.8
−(×10未満)	79	89.8	45	88.2	76	92.8
計	88例		51例		82例	

<抗 DNA 抗体>

+(×640)	2	2.0	2	3.4	2	2.3
±(×80～×320)	5	5.0	3	5.1	4	4.7
−(×80未満)	94	93.0	54	91.5	80	93.0
計	101例		59例		86例	

89.8％であり，最終診察時にはほぼ，半分以上が正常化している。

表17から，ASOの320×以上の上昇が初診時，13.7％とかなりの頻度にみられた。リウマチ因子は，RAtest

表20

<GOT>

時	初診時		診断確定時		現在または最終診察時	
	例数	%	例数	%	例数	%
40単位以上	43	21.8	28	22.6	16	8.3
40単位未満	154	78.2	96	77.4	177	91.7
計	197例		124例		193例	

<GPT>

40単位以上	24	12.2	21	16.9	12	6.2
40単位未満	172	87.8	103	83.1	182	93.8
計	192例		124例		194例	

<Al-P>

20以上	4	22.2	14	20.0	18	17.3
20未満	14	77.8	56	80.0	86	82.7
計	18例		70例		104例	

<LDH>

800以上	7	4.5	3	3.0	0	0
400～800	56	35.9	36	36.4	36	23.4
400未満	93	59.6	60	60.6	118	76.6
計	156例		99例		154例	

<BUN>

20以上	10	9.1	3	4.2	10	9.2
20未満	100	90.9	69	95.8	99	90.8
計	110例		72例		109例	

<総コレステロール>

250以上	4	4.3	3	4.5	7	7.1
200～250	17	18.5	8	12.2	16	16.2
200未満	71	77.2	55	83.3	76	76.7
計	92例		66例		99例	

表21

<血清蛋白>

時	初診時		診断確定時		現在または最終診察時	
	例数	%	例数	%	例数	%
8.0以上	38	17.9	21	16.9	40	21.3
7.0～8.0	107	50.5	63	50.8	92	48.9
6.0～7.0	65	30.7	34	27.4	48	25.5
5.0～6.0	2	0.9	5	4.0	7	3.7
5.0未満	0	0	1	0.8	1	0.5
計	212例		124例		188例	

(g/dl)

<γ-gl>

30以上	8	3.9	9	7.7	8	4.6
20～30	46	22.4	39	33.3	33	18.9
10～20	138	67.3	60	51.3	109	62.3
10以下	13	6.3	9	7.7	25	14.3
計	205例		117例		175例	

(%)

<Ca>

5.5以上	33	47.8	20	51.3	26	36.6
4.5～5.5	23	33.3	14	35.9	26	36.6
4.5未満	13	18.8	5	12.8	19	26.8
計	69例		39例		71例	

(mEq/dl)

<P>

6.0以上	1	2.0	3	15.8	1	1.6
3.0～6.0	45	90.0	14	73.7	56	88.9
3.0未満	4	8.0	2	10.5	6	9.5
計	50例		19例		63例	

(mEq/l)

表22

<全経過を通じての薬剤使用頻度>

薬剤名	例数	%(275例中)
副腎皮質ホルモン剤	192	69.8
サリチル酸剤	238	86.5
ピラゾロン系　イルガピリン	5	1.8
ブダゾリジン	2	0.7
タンデリール	3	1.0
トリプトファン系　インダシン	53	19.3
インテバン・メゾリン	5	1.8
アントラニール系　アーレフ	1	0.4
オパイリン	6	2.2
ポンタール	11	4.0
ボルタレン	10	3.6
フェニール酢酸系　イブナック	2	0.7
ブルフェン	36	13.1
ピリミジン系　パラミジン	2	0.7
塩基性　ソランタール	1	0.4
トルメチン	3	1.0
金製剤　ゾルガナール(ロモゾール)	5	1.8
シオゾール(キドン)	46	17.1
Dペニシラミン	10	3.6
免疫抑制剤　イムラン	3	1.0
6MP	3	1.0
エンドキサン	16	15.8
キョーリン AP_2	1	0.4
トランスファーファクター	2	0.7

で，初診時19.3％，診断確定時24.3％出現している。

表18は，免疫グロブリンの結果である。初診時 IgG

表23

<第1選択としての薬剤使用頻度>

① 単剤

薬剤名	例数	%
副腎皮質ホルモン剤	75	27.3
サリチル酸剤	121	44.0
ピラゾロン系　イルガピリン	2	0.7
タンデリール	1	0.4
トリプトファン系　インダシン	1	0.4
インテバン・メゾリン	2	0.7
アントラニール系　ポンタール	4	1.5
ボルタレン	2	0.7
フェニール酢酸系　ブルフェン	3	1.0

② 二剤

薬剤名	例数	%
副腎皮質ホルモン剤＋サリチル酸剤	28	10.2
副腎皮質ホルモン剤＋インダシン	5	1.8
サリチル酸剤＋インダシン	4	1.5
サリチル酸剤＋ブルフェン	3	1.0
サリチル酸剤＋ボルタレン	2	0.7

③ 三剤

薬剤名	例数	%
副腎皮質ホルモン剤 サリチル酸剤 インダシン	4	1.5
副腎皮質ホルモン剤 サリチル酸剤 金製剤	3	1.0

の多いものが多く，IgA の少ないものも比較的多い。

表19は，補体と抗核抗体であるが，極端な補体の低下は殆んどなく，抗核抗体は検査してあるもののうち，10×以上で初診時10.2%，診断確定時11.7%であった。

表20は肝機能その他の検査所見であるが，肝機能障害の GOT 上昇は，初診時21.8%，診断確定時22.6%とかなり高い。

表21では，血清蛋白は，殆んど異常はなく，γ-gl の上昇は20%以上でみると，初診時26.3%，診断確定時41%と極めて多い。

次に治療について検討すると，表22によると，全経過を通じての使用頻度は，サリチル酸剤86.5%，副腎皮質ホルモン剤69.8%，トリプトファン系21.1%，金製剤18.9%，免疫抑制剤17.8%の順となっている。

第一選択は，表23のように，サリチル酸剤が，断然多いが意外に副腎皮質ホルモン剤も多い。

次に予後について検討すると，表24のように Stage Ⅲ 7.0%，Stage Ⅳ は1.8%であり，Class 3 は，6.8%，Class 4 は1.7%となっている。

死亡例は，4例であった。

表24

<進行度（構造変形）の分類>

	例数	%（272例中）
Stage Ⅰ	180	66.2
Ⅱ	68	25.0
Ⅲ	19	7.0
Ⅳ	5	1.8

<機能障害の分類>

	例数	%（230例中）
Class 1	112	51.7
2	94	39.8
3	16	6.8
4	4	1.7

<死亡例>

例数	4
死因	高血圧性心不全 頭蓋内出血 水痘によるWaterhouse-Friderichsen症候群

若年性関節リウマチ（JRA）の初期症状

福岡大学小児科　小　田　禎　一

1. 対象および方法

病歴の明らかな34例の JRA 患者について初期症状を調査した。全身型18（女10），少数関節炎型8（女8），多関節炎型8（女5）である。

2. 結果

発病1週間までの症状は表1の通りである。全身型では，初期に関節炎を呈するものが18例中6と少なかった。なお，初期にリウマチ熱と誤診されたものが全身型のうち6例あった。

固定的関節炎出現までの期間は，表2に示すように，1週間から8～9年と多様であった。一般に，全身型では長期間を要し多周期性の経過をとりながら次第に関節

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

昨年度調査した結果の続きを報告する。